

事業名 CD	0110060118	史跡新府城跡環境整備事業		
細分化した事業名				
事業担当課室 CD	500100	教育課	整理コード*	

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	魅力あふれるまちづくり		
	中項目	次代へつなぐ歴史・文化の醸成		
	小項目	地域文化の創造・継承		
関連する個別計画等	史跡新府城跡保存整備基本構想 史跡新府城跡保存整備基本計画	根拠条例等		
関連する事業	史跡新府城跡発掘調査事業			

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	新府城跡を保護活用するために、史跡整備を実施する。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	市民・来訪者
これまでの改善経過	なし
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	〈実施・運営方法〉 ■市 ■委託 ■補助金 ○その他 ( ) 史跡保存整備工事(請負発注)・実施設計(委託)
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	戦国大名武田氏最期の城である新府城跡の遺構を整備し、貴重な歴史的文化的遺産を保存し、後世に継承する。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)	19,842	26,095	25,119
財源内訳	国庫支出金	9,921	13,047	12,526
	県支出金	4,960	6,523	6,263
	市債			
	その他			
	一般財源	4,961	6,525	6,330
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	0.19	0.19	0.29
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	1,311	1,296	1,948
D	総事業費(A+C) (千円)	21,153	27,391	27,067
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	846 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分かりやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	史跡保存整備面積	当該年度整備面積 累計	4,367 m <sup>2</sup>	10,709 m <sup>2</sup>	3,641 m <sup>2</sup>
			17,933 m <sup>2</sup>	28,642 m <sup>2</sup>	32,283 m <sup>2</sup>
成果指標	史跡全体の保存整備面積 (進捗率)	保存整備実施済面積／史跡全体の面積 (257,721.1 m <sup>2</sup> )	7%	11%	12%
	第1期整備計画の進捗率	第1期整備実施済面積／第1期整備全 体の面積 (43,079 m <sup>2</sup> )	42%	66%	75%
効率指標	1 m <sup>2</sup> あたりの整備単価	史跡整備工事事業費／史跡整備工事 面積 21,000,000 円／3,641 m <sup>2</sup>	4,543 円	2,436 円	5,767 円

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 史跡整備は文化財保護法に基づき地方公共団体（管理団体）である市が国庫補助を受けて実施することが適正である。		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 当該事業は事業計画に基づいて国と調整をとり補助対象とした上で史跡保存整備を進めており妥当と思われる。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 史跡保存整備工事は事業計画の年次計画を達成することで成果があり、経費の削減は難しい。		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化（コストを集中的に投入する） <input type="checkbox"/> 手段の改善（実施主体や実施の手段を代える） <input type="checkbox"/> 効率化（結果単位あたりのコストを下げる） <input type="checkbox"/> 簡素化（事業の規模や内容を縮小する） <input type="checkbox"/> 統廃合（他の事業と統合する、または廃止する） <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性（いつまでに、どういう形で具体化するのか）		
	(1) 中長期的 第1期整備を平成25年度まで予定している。	(2) 24年度 東出構の整備	(3) 23年度 西出構の整備
	22年度の改善計画 なし		
22年度の改善結果 なし			
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 史跡保存整備完了区域の維持管理			
課長所見	史跡整備を通して、今後さらに市民や市外の方々へのPRの内容を充実していく。		